

第2回 川越市総合計画審議会 議事要旨

1 開催日時 平成27年3月20日（金）午前10時00分～午前11時50分

2 開催場所 川越市本庁舎7階 7AB会議室

3 出席者

溝尾良隆、河野哲夫、川口啓介、片野広隆、吉田光雄、大泉一夫、牛窪多喜男、川口知子、三上喜久蔵、小林薫、伊藤匡美、関口一郎、真下英二、岩堀和久、岡田弘、小倉元司、柿沼昭弘、小室万里、櫻井晶夫、重成大毅、杉山榮子、関口俊一、長坂江、原伸次、山岡俊彦、高橋直郁、平嶋こずえ、町田一枝の各委員

4 会議の概要

1 開会

2 会長挨拶

前回の会議は第1回目ということで簡単に終わったが、本日から本格的な審議を行って参りたいので、皆様の御協力をよろしくお願いしたい。

3 委員紹介

前回、欠席した小倉委員及び小室委員の紹介を行った。

4 議事

(1) 川越市の現状と課題について

事務局から前回の議事要旨を市ホームページに掲載した旨の報告及び配布資料の確認と資料説明を行った。

(2) 意見交換

配布資料に関連した質問等及び意見交換については次のとおり。

【意見の概要及び質疑応答】

- 「第三次川越市総合計画後期基本計画の進捗状況について」は、行政サイドで評価したものと理解している。ハード的なものについては点数化するのは簡単だと思うが、ソフト的なものについてはどのような形で評価したのか。
 - ・施策の進捗状況については、当初の目標に対してどれだけ事業が進捗したかということで評価している。ソフト事業については、到達度等を測りづらい場合、担当部署が行った評価を基に、事務局で担当部署とヒヤリングを行い評価をした。
- 「第三次川越市総合計画後期基本計画の進捗状況について」は、3ページ以降の各章における進捗状況の評価を3点満点で採点するのではなく、達成度としてパーセントで表した方が分かりやすく、目標以上の成果が出たことも表せるのではないかと。また、章、施策、細施策の評価について、「推移している」等の表現を用いているが、

- 2 時点以上の比較を行っていないので、また評価方法の説明からしても「成果があった」等の表現に統一すべきではないか。
- ・施策の進捗状況の評価については、パーセントで表すことが難しいものもある。今後、なるべく達成状況の分かるような指標の設定をするなどの形で検討したい。「推移している」といった表現については改めたい。
- 「第三次川越市総合計画後期基本計画の進捗状況について」のうち、4 ページ以降の「2 後期基本計画の施策の指標の達成状況について」の各表中にある「傾向」の項目は、実際には最近の傾向ではなく、指標設定時との比較を行っているので、「指標設定時との比較」といった表現に改めた方が誤解がないのではないか。
- ・表現については改めたい。
- 市民満足度調査について、他の自治体と比較して満足度が高いのか低いのか、といった評価はされているのか。
- ・満足度については、回答の選択肢によるところもあり、比較が困難な面がある。その中で、定住意向については、川越市では定住意向の高い人（「住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」の合計）が 88.7%となっており、同様の調査を行っている近隣自治体に比べて、比較的高い結果となっている。
- 「川越みらい会議」の参加者の年齢構成をみると、60 代、70 代が多いのではないか。やはり働いている方や学生は参加しづらいので、そこを補って様々な若い年齢層をターゲットとして、「まちかどインタビュー」等を行ったのだと思う。それらの市民参加のうち「女性限定！ おしゃべりカフェ」について、参加者 11 人というのは非常に少ないと感じるが、取組状況はどうだったのか。
- ・当日、都合により欠席された参加者があったということもあるが、もう少し参加者が集まるような工夫も必要だったのではないかという認識はある。一方で、参加者から具体的な話をじっくり聴くことができたという面もあると考えており、参加人数としてはこの人数でも、十分な意見が聴取できたと考えている。
- この年代の母親たちと接する機会が多いが、彼女たちの思いはたくさんある。参加者 11 人で十分だということだが、ミスマッチを感じる。ぜひ、どこかでこの結果を補えるような意見聴取の場があればよいと感じる。
- 中期財政計画において、厳しい財政見通しが示されているが、これについて考えを伺いたい。
- ・中期財政計画で示した数字は、過去の決算状況、伸び等を用いて、直近の当初予算を基に算出したもの。今後、国や県の施策、市の取組等による影響も考えられるが、少子高齢化の進行等は極めて高い確率で予測されることから、財政状況は今後、厳しくなるという認識をもっている。
- 中期財政計画の財政見通しの課題等に係る対応策について、各対応策においてどのくらい歳入を増やしたり支出を減らしたりするという具体的な目標となる金額を積み上げていなければ、本当にマネジメントしようという意図がないと思われる。
- ・対応策について、数字として具体化していくのは困難な面もあるが、財源に対してどれくらいの取組をすればどのような金額が歳入歳出それぞれ計上できるのかといったことについては、今後調整したいと考えている。

- 市民満足度調査のような調査は、マーケティングでよく使用される手法でもある。前回と同様の調査設計で実施していることから、回を重ねることで推移をみることができるものと期待している。なお、調査結果については第四次川越市総合計画や他の市政に生かしていくべきとは考えるが、一方で、この調査で分かるのはあくまでも調査時点での市民ニーズ、考え方であることに留意することが必要である。現在の市民ニーズをかなえていくことは重要だが、未来、この市はどのような風になっていくのか、ということも考えて施策を練っていく必要がある。市民満足度調査については、大変いいアンケートだと思うので、是非継続し、施策にも生かしてほしい。
- 未来のことを論議する際、弱者はなかなか居づらいということがよくある。協働の中に弱者が居ていいのかということをよく考えるが、人間というのは単に個体として強い弱いということではなく、人間が生き残っていく本当の理念は協働ではないかと思っている。人間は自然界に放り出されれば全員が弱者だが、その弱者のDNAが将来的には国を救う場合もあるかもしれないし、未来にはどこかでそのDNAが役に立っているかもしれない。もし、弱者を切り捨てていたのなら、人類はつながっていなかったかもしれない。協働の理念として弱者も必要なんだということを計画に示していただきたい。未来の川越を考えるとときには、いろいろな人が関わっていくことが大事なんだということ意識していただきたい。
- 高齢者福祉、認知症の問題、子育て等々、色々な問題が行政から地域コミュニティへおりてくる。受け皿となる地域においては、老人会やその参加人数が急速に減少している。自治会加入率も徐々に減少してきている。小学校の育成会やPTAにも入らないというところも出てきている。非常に多様化してきている中で、これからの地域のあり方などについて多くの意見をとらえながら進めていければよいが、それが難しくなっている。そういった中で、協働という話が出たが、行政も財政が悪化していき、将来的には、行政と地域の共助の形になっていくのではないかと。行政や地域のあり方について、根本から見直していく必要がある。ぜひ、そのあたりのところを、できるだけ仕切り直しながら、もう一回構築していただけたらありがたい。
- 前回資料で示された策定方針の中で、市民活動の活性化と地域のコミュニティ機能の拡充が盛り込まれており、住民自治の推進を強くうたっていることは目新しいと感じる。地域会議等の状況について伺いたい。
- ・現在、いわゆる市民センター地区を中心に、それぞれの地区において地域会議を立ち上げる取組が行われている。来年度は、わずかではあるが、市として予算的な支援も予定している。これらの地域会議を中心にして、先ほどの意見にあった共助につながるような動きに拡大していければ、安心して住める、住みやすい地域につながっていくのではないかと。そういった広がり期待している。
- それぞれの世帯が多様化してきており、それらをまとめることはなかなかできない。このままでは本当に地域も行政も終わってしまう。地域の活性化のためには、地域から自発的に行政に対してものが言えるようなことをやっていかないと、地域が何も言わなくなってしまうと思うので、そのあたりのところをお願いしたい。

- 施策の指標設定にあたっては、本当にその政策目標の達成度を測ることができる指標なのかということをも十分検討していただきたい。
- 先の意見にあった地域参加の可能性の低下に関連して、価値観の多様化や社会構造の変化に対応しながら、地域住民のニーズをどうやって吸い上げていくのかということも重要な課題となってくる。一つの方策は、地域会議を通じて吸い上げていくやり方であるが、それでも吸い上げ切ることができないということがあるのも事実だと思う。川越みらい会議は、政治学でいうところの討議型世論調査に非常に近い形を取っている。もう少し工夫すれば、さらによいやり方になるのではないか。地域会議を通じて地域のニーズを吸い上げるということも大事であるが、どうやっても取り込めない部分を、川越みらい会議や、それ以外のまちかどインタビュー等を含め、こういった手法で取り込んでいくというのは、非常によい取組だと思う。
ただし、注意点として、現時点でどのようなことがニーズとして取り上げられたのかということだけでなく、継続的に行っていく必要がある。
手間がかかる手法で大変だと思うが、できる限り多くのテーマで、多くの回数を重ねていければ、総合計画の策定のみならず、今後の市政の推進という観点から見ても、よいやり方になってくるのではないか。
- 市民満足度調査で実施した定住意向について、川越市の活性化のためには、若い人たちには大いに外に出てもらってもよいのではないかと考える。単純に、住み続けたいという数字が高いから良いということではなく、年代別にどういった形がよいのか、ということについても配慮して取り扱った方がよい。

(3) その他

【第四次川越市総合計画原案の作成について】

- ・今回いただいた意見を取りまとめ、事務局で原案の作成を進めたい。

【次回の会議日程について】

- ・次回の会議日程については、流動的な要素があるが、5月下旬か6月末以降を予定している。会議の一箇月くらい前に各委員あてに通知を出したい。

5 副会長挨拶

河野副会長が、閉会に当たり挨拶を行った。

6 閉会

以上